

瓶割山散策路 ルートマップ



不二の瀧の一角についての解説

『近江の山城ベスト50
を歩く』より抜粋。

ところで、瓶割山の西側の山麓、長福寺町字里中には、土塁に囲まれた約一万二〇〇〇平方メートルの規模の区画が存在する。旧来から根小屋と考えられているものであるが、これは現在においても確認可能で、周囲を三・五メートルの土塁が平坦部を囲んでいる。

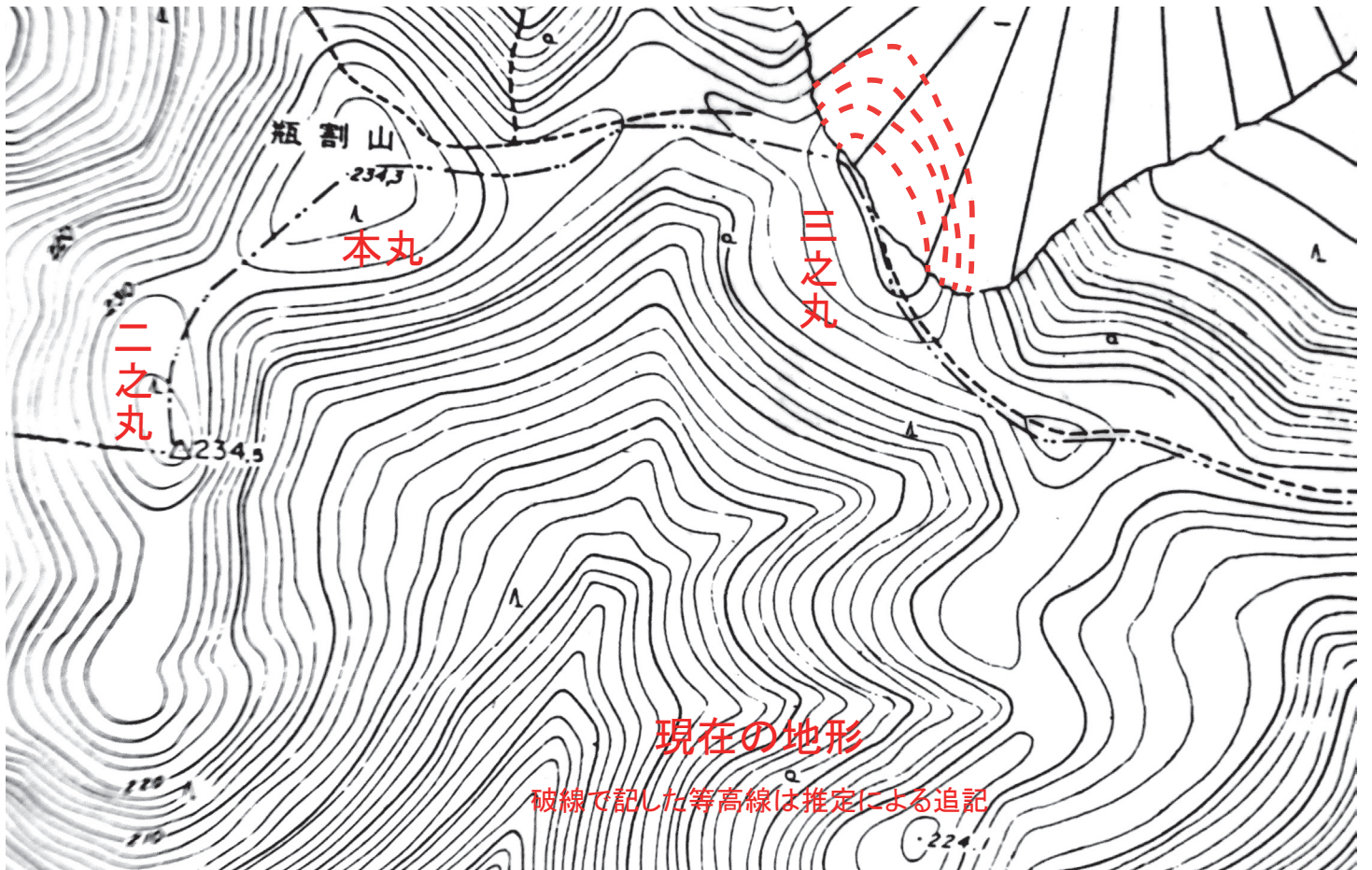
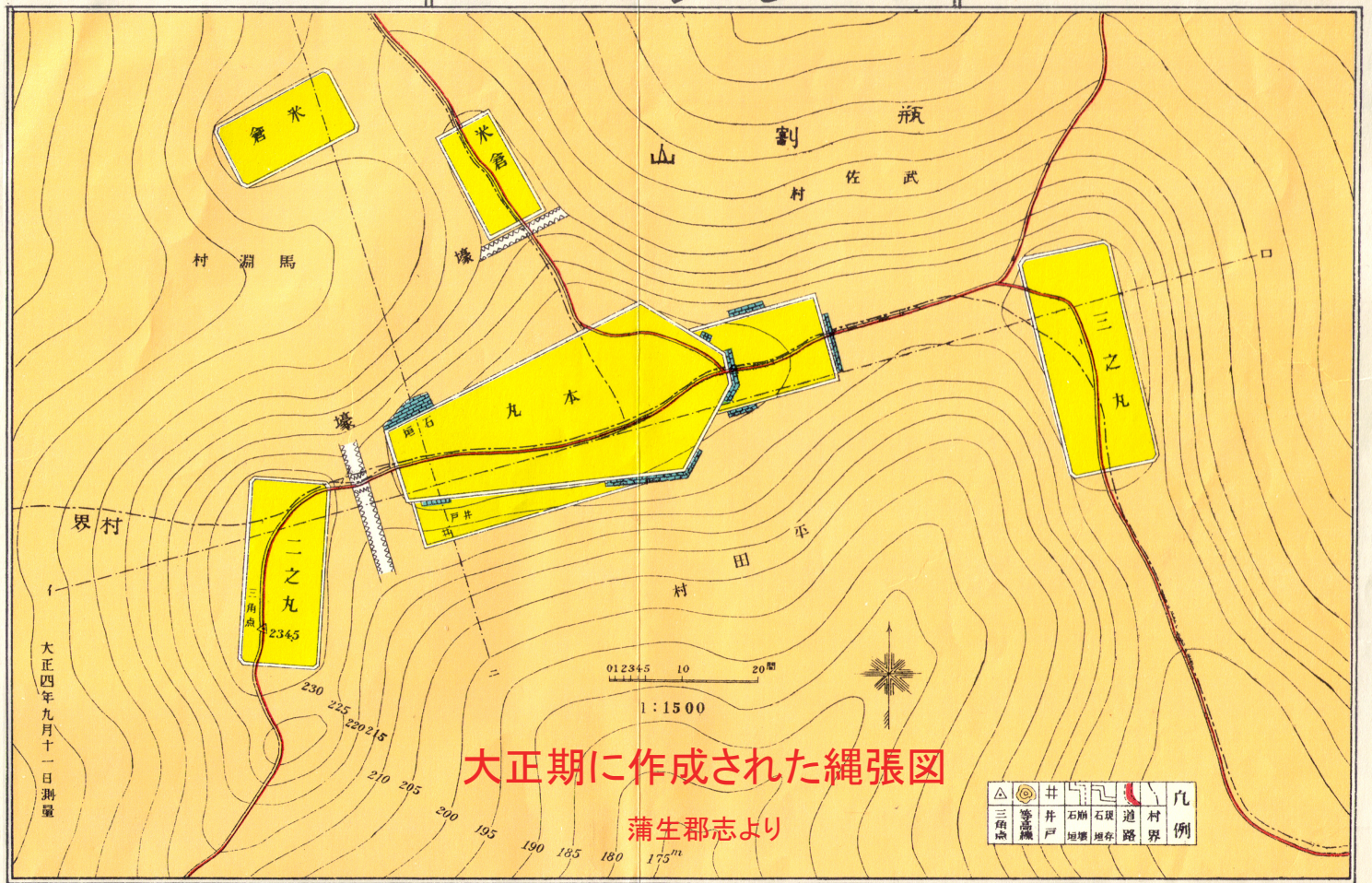
尚、この山麓根小屋部分においては、近江八幡市教育委員会が、昭和六〇年に発掘調査を行っており。土塁の部分の断面観察を行っているが、版築によって盛り土が成されており。粘土と砂を交互に積んでいることが確認できている。

六角高頼の時に、室町幕府と対立し、定頼の時に二代將軍義晴を擁立・保護している。將軍義晴は、その大半を近江で過ごしたと言われているが、『宗長日記』によると、「長光寺かりの御所しつらはれ御うつり。築地以下普請。しばらく御座のやうにきこゆ。」とあり、築地の記述が見えることから將軍義晴が御座した仮の御所が、この西側山麓の根小屋であった可能性があり、また、『信長公記』巻三 元龜元年（一五七〇）五月十二日の条には、「長光寺に柴田修理亮在城」と記述されていて、承禎と戦う信長方の城として柴田勝家が配され改修しているようである。

（三尾次郎）

城跡主要郭（曲輪）と縄張

長光寺城平面図



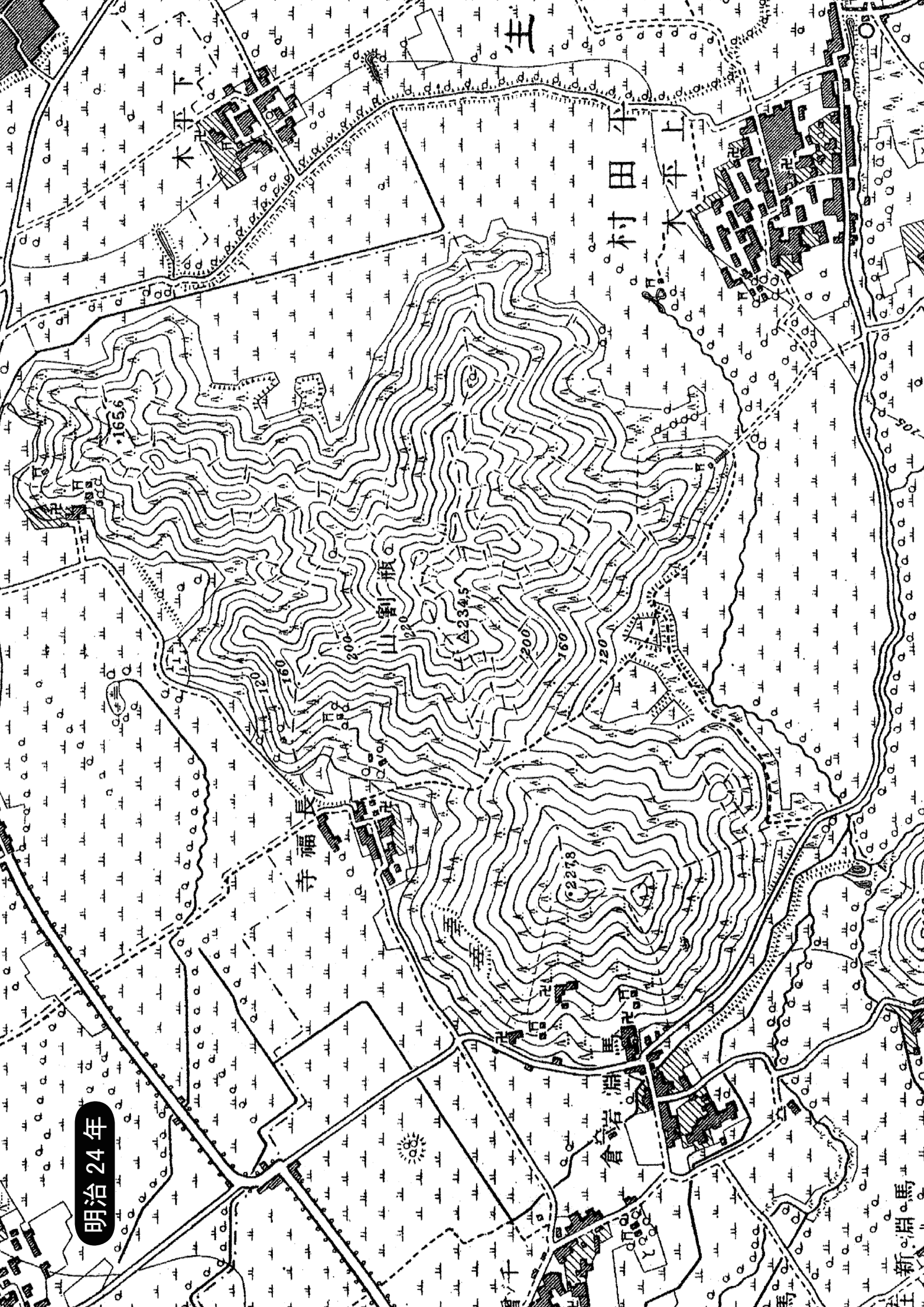


昭和 50 年

昭和 36 年



明治 24 年



生

木下

村田

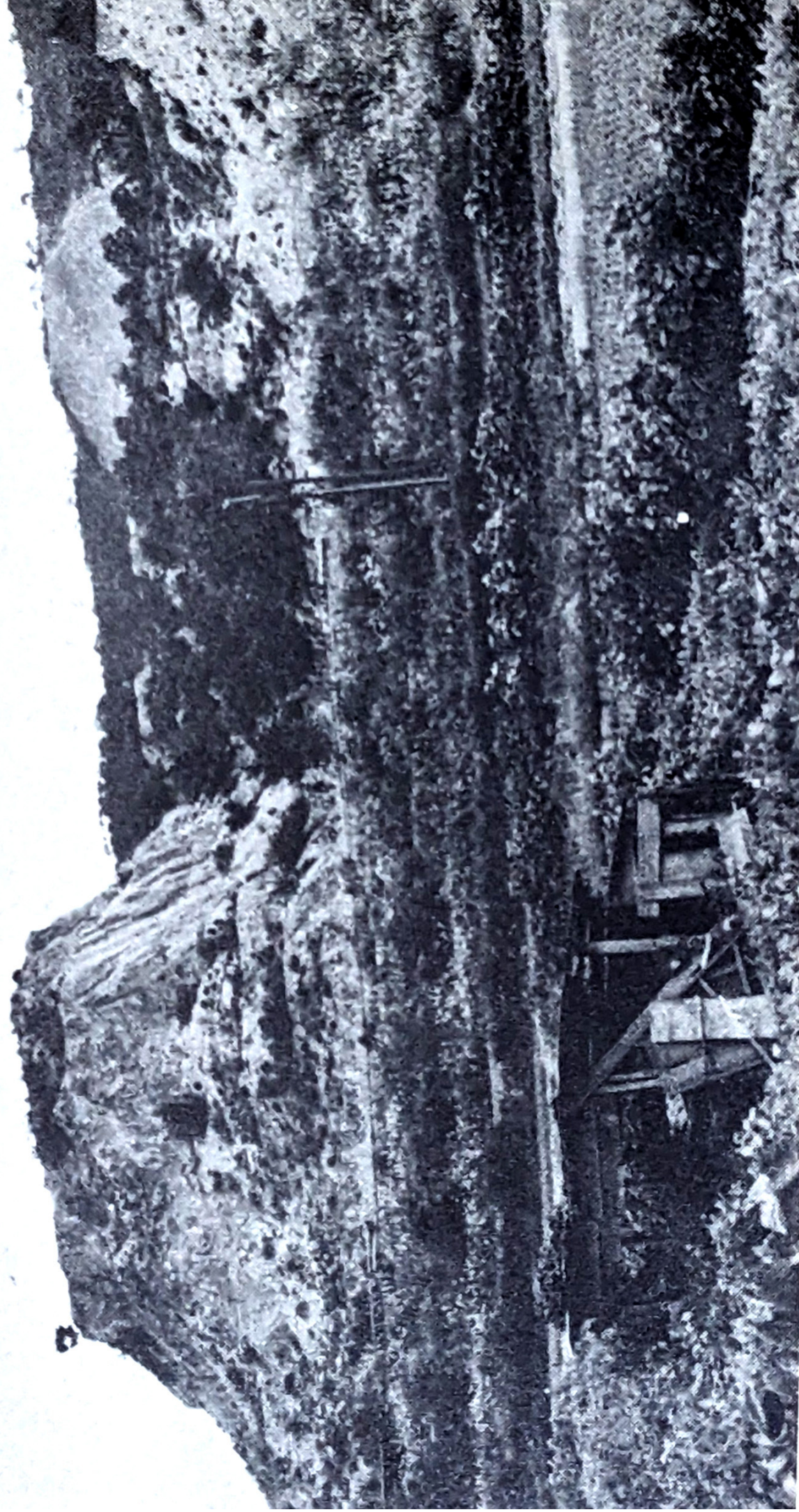
寺福長

倉岩

馬淵新

採土により消滅しつつある 割山の北東部：昭和 30 年代（推定）田中政三著、近江源氏第一巻より。

この付近からは水晶が産出した。またこの山の採土が、新幹線の高架の盛り土に使われたといわれている。



近江五百余城の一つ長光寺城址、今は土取り場となって破壊されてしまった。